

『大規模災害が医療資源の分布へ与える影響に関する調査』 に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:平成 29 年 9 月 27 日 ~ 平成 32 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 大規模災害が医療資源の分布へ与える影響に関する調査

〔研究目的〕

本研究では、医師・歯科医師・薬剤師調査や医療施設調査、病院報告の統計調査の個票データを用いて、大規模災害後の人口動態や疾病構造の変化等を踏まえ、医療資源(医師や医療機関)の分布がどのように変化をするかについて評価を実施いたします。本研究によって得られた検討は、将来起こりうる大規模災害発生に備えた医療資源配置計画整備への基礎資料とし、また将来の医療資源配置計画への提言を行うことを目的としています。

〔研究意義〕

大規模災害は多くの人的被害をもたらすとともに、人々を支える社会基盤へも大きな影響をもたらします。我が国においても東日本大震災が、被災した地域社会の基盤を揺るがした。このような大規模災害は被災地域を中心に多岐にわたる影響を将来にわたって及ぼすであろうことは明白であり、多くの観点から検討される必要があります。しかし、医師と災害に関する先行研究はほとんどが、災害時の役割や災害後の役割についての記述にとどまっています。本研究では、これまで私たちの先行研究から判明した点を踏まえて、大規模災害(特に東日本大震災)による医療資源(医師、医療施設等)分布への影響について評価し、それらを今後起こりうる可能性のある災害計画を検討することです。本研究によって得られた結果は、これら将来の計画を考案する上の資料となり、社会的に意義があると考えております。

〔対象・研究方法〕

東日本大震災発生前の平成 20 年度から震災発生後の医師および医療資源の分布をみるために、平成 20 年度から平成 29 年度までに、厚生労働省が実施した調査票に登録されている医師および医療機関を研究対象としています。各医療機関から被災地域までの距離を測定し、これら測定した被災地までの近接性と、医療資源数の変化割合について、集計・統計解析を実施します。

〔研究機関名〕 ちば総合医療センター地域医療センター、広島大学

〔個人情報の取り扱い〕

本研究では個人情報は取り扱いません。また、収集した調査票情報は、研究の中止または研究終了後すべて破棄いたします。また、本研究の調査結果については統計解析や集計結果のみが公表され、間接的にも調査対象が特定されることはありません。

〔その他〕 なし

対象となる医師および医療機関の方で、ご自身はご施設の調査結果などの本研究への使用をご承諾いただけない場合や、本研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：井上 和男（帝京大学ちば総合医療センター地域医療センター 教授

研究分担者：松本 正俊 教授、鹿嶋 小緒里 助教（広島大学大学院医歯薬保健学研究科）

住所：〒299-0111 千葉県市原市姉崎 3426-3

TEL：0436-62-1211 （代表）〔内線 2901 〕